

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000375		
法人名	医療法人 名翔会		
事業所名	グループホーム 和合の家		
所在地	愛知県愛知郡東郷町大字春木字白土1-1884		
自己評価作成日	令和4年2月4日	評価結果市町村受理日	令和4年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2375000375-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
聞き取り調査日	令和4年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に恵まれた環境の中で、「和き合いあいと暮らせる家」という基本理念のもと、第二の我が家を目指して、利用者職員が共に支えあう家族のような笑顔があふれるグループホームです。
 コロナ禍で外出や地域との交流を控えているが、利用者の意欲が低下しないようホーム内で出来ることを増やし、日々楽しく笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は事業所の玄関やリビングに掲示して目につきやすいようにし、「和き合うあいと暮らせる家」としてホームが第二の我が家になるよう、その人らしい生活、個性、価値観を大切にしたケアに日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在も外出や外食などは控えているが、天気がいい時などは施設周辺を散歩し、近所の方とあいさつを交わし交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年地域学生の職場体験を受け入れたり、町内の行事に参加することにより認知症の方の理解につながるよう心がけているが、今年度も新型コロナの影響で自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回運営状況など報告書を作成し、高齢者支援課、地域包括支援センターに持参し意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	和合の家だよりを毎月発行し、高齢者支援課、地域包括支援センターに持参し入居者の暮らしぶりや空き状況を報告し、いつでも相談できる関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日頃から身体拘束やスピーチロックなどしないように職員同士声をかけながら取り組んでおり、玄関などの施錠もセンサーなどを使用しできるだけ鍵をかけないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	入浴時など身体をチェックを行い見過ごさないようにしている。外部の研修に参加したり、内部研修を行い職員の意識統一をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修などに参加し、継続して権利擁護について学べるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前にご本人、ご家族と不安や疑問がないか十分話をして聞きだし、ホームでできること、できないことも説明を行い納得のうえ契約を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者からは、普段の何気ない会話から意見や要望などないか感じとり、ご家族の訪問時に、ケアプランの説明や近況報告の際に要望などないか伺う機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が日頃気づいた点やスタッフからの提案を受けて、スタッフ全員から意見を聞くなどし、必要があれば法人代表者に相談しよりよいケアを目指した取り組みに心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年二回人事考課評価を作成し、代表者に報告することにより勤務状況を把握している。その結果をもとに賞与や昇給に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のレベルに合わせてなるべく多くの職員が研修に参加できるよう計画をたて、外部、内部研修ともに業務内で参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	町主催の研修に出席し、近隣事業所との意見交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にできる限り、ご本人、ご家族に会い要望など直接話をし伺い、その情報をもとに書類で職員が共有し、利用者に受け入れられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の困っていること、不安なこと、要望などを相談時十分にききとり、入居前にGHに訪問していただいたり、連絡を行ったりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学や相談にみえた際、ホームの理念やサービスの内容など何ができてできないか説明し、ご本人ご家族と相談し話し合いケースにより他のサービスや施設の紹介など支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者と職員ともに支えあい、ご本人の得意な分野で力を借り、日々の暮らしがより穏やかに暮らせるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の訪問時、日常の様子を伝え気になることや気づいたことを相談し、ご家族にも協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在も感染症対策により馴染みの方と外出など難しい状況であるが、ご家族と一緒に昔からの主治医に受診へ行かれる方もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方同士が食事やお茶を一緒に取れるようさりげなく配慮している。トラブルがあれば職員が間に入り、生活の中で得意なことや出来ることをお互いに認め合い支えあって生活していることに気づけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了までに、ケアマネージャー等と連携し次のサービス利用を支援している。その後の生活についても経過を把握し、必要があれば相談支援している。サービス終了時、「いつでも遊びに来てください」と声掛けして全員で送り出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の会話の中で、あるいは表情や態度等で気づいたことも、全スタッフが共有し本人の意向にそえるよう、管理者を含めその都度検討している。希望に添えない場合は、代替案を提案するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族から収集した情報をもとに、職員全員が生活歴やライフスタイル、既往歴、家族背景、価値観などできるだけ把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中で、一人ひとりの体調や心身状態の変化に留意し、日誌やカルテに記録し申し送るなど全職員が気づきを共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常的なカンファレンス等を通じて、状態等の変化の把握が行い、また介護記録については、ケース記録と一緒にファイルし、職員全員が把握、共有できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	計画作成担当者が作成した介護計画を全スタッフが実践し、気づいたことや状況変化を記録し、その都度介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向に応じて通院や往診を受けられるよう支援し、併設の老健において、行事の参加や車いすの方の機械浴での入浴など個々に合ったサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の盆踊りやもちつきなどに参加し交流を深めたり、散歩や買物へ行った際あいさつをかわし馴染みの関係が築けるようにしていたが、現在もコロナ渦のため自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診時には、ご家族にご本人の変わったことや普段の様子を伝え主治医に相談してもらったり希望があれば職員が付き添うこともある。併設にクリニックもあり月1～2回定期受診される方もみえる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	クリニックと老健が併設しており、看護師が配置しているため、気軽に相談できる関係が築かれている。ケガ、昼夜急変時に応急処置など支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は、ご家族に連絡し管理者が付き添い安心して入院していただいている。入院中は、関係者やご家族から経過を聞くなどして把握し、早期に退院できるようアドバイスするなど支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時管理者が終末期や延命治療の希望等を確認し、書面で記録しているため全スタッフが把握している。その時が来たと思われる場合は、管理者がご家族に希望を再確認し、出来ること出来ないことを十分説明し方針を理解したうえでケアに取り組むことになっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時マニュアルがあり、いつでも見れるよう掲示してある。また、消防署で実施している普通救命講習を全職員参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回昼夜を想定して避難訓練を行っており、利用者も参加し消火訓練や、職員による避難誘導を行い意識づけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自分自身をその一人ひとりの立場に置きかえ、言葉がけなどさりげなく注意しながら行い、個人の情報はイニシャルを使用しメモなどの使用済みの物はシュレッダーにかけ誇りやプライバシーを損ねないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ふだんの何気ない会話から、ご本人の希望をくみ取れるよう寄り添い、一人ひとりの能力に応じた声かけや働きかけを行い選択肢を出して自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活のペースを大切にし、起床・就寝時間や食事の時間も一律でなく、出来る限りご本人の生活リズムに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容の利用を控えているが、美容師の免許を持っている職員がいるので、ご家族様に同意を得てカットしおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりのできることを職員が把握し、一人ひとりの力を活かしながら協力していただき、時にはアドバイスを頂きながら、食事の準備片づけをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれに合った食事、水分の形態を提供し確保できるようにしている。体操後や散歩入浴後などおやつ以外の時間以外でも水分が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後自分で行える方は見守りをし、介助が必要な方もできるだけ自分自身で行っていただき、職員が仕上げを行うなど一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っており、誘導時やパットの交換時などの声かけをご本人の気分を害さないように気をつけて支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	繊維質が多い食材を積極的に取り入れ牛乳や水分を多くとっていただいている。毎日ラジオ体操や天気の良い日には散歩に出かけ身体を動かすようにして便秘の予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日や時間帯を決めずに毎日入浴できるようにしている。お互い声をかけ合い一緒に入浴されるかたもみえる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、リビングでも横になっていただけるよう畳のコーナーがあり、ソファも多く配置し一人になれる空間もある。夜間は、安眠できるよう室温調整などこまめに行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容が記入した服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更などがあつた場合には、入居者の状態に変化がないか観察に努め変化があればご家族や主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴や普段の何気ない会話などから得意分野を見つけ出し力を発揮して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は、施設の周りを散歩したり地域の方々とあいさつを交わして、交流し気分転換をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外食時等職員が見守り支払えるよう支援し、ご本人の希望により、ご家族と相談し少額のお金を持たれている方も見える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人持ちの携帯電話を取り次いだり、ご家族にホームから連絡した際、電話をご本人に取次ぎコミュニケーションが取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ひな人形、五月人形、クリスマスツリーなど入居者と一緒に飾り付けを行うことにより季節感をあじわってもらっている。リビングのソファや家具などの配置も入居者と一緒になって考え居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った方同士リビングでくつろがれる方もあるが、独りになりたい時には離れた静かな所にソファを配置し落ち着いてくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人やご家族と入居前に相談しながら、できるだけ昔から使用していた馴染みのあるものを持ってきていただき自宅にいる時のような環境を作っている。入居後もご本人とお話ししながら何気ない会話で馴染みの物など必要なものはないか確認している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室入口にネームプレートや写真をご家族の了承を得て飾ったり、トイレの場所が分かるように目印をつけたり、自立した生活が送れるよう支援している。		